

## D材販売で造林コスト低減を目指し検討会

[南木曾支署]

10月30日、南木曾町柿其国有林の皆伐跡地で、「D材販売と造林コスト削減に向けた現地検討会」を開催し、長野県の研究員をはじめ、国有林の産物買受業者及び事業の請負業者並びに局署職員等、総勢39名の参加がありました。

初めに、現地検討会の意義や目的、資料について説明した後、伐採せずに残した沢筋の広葉樹の保残状況、昨年度から試行的に販売を始めたバイオマス発電用のD材の残存状況、自然に芽生えたアスナロの稚樹の状況等を説明し、現地を確認しながら、D材販売の推進や再造林コストの削減について、意見交換を行いました。

長野県林業総合センターの主任研究員からは「長野県の課題は、D材を処理する業者が少ないこと」、また、丸太を生産する事業の請負業者及びD材の買受業者からは「D材の受け渡し箇所を双方で折り合うことが大切である」、「初めての取組であり、今後も試行を続けて検証したい」などの課題や意見が出されました。



D材搬出後の枝条の残状況を確認



現地を確認しながらの意見交換会

南木曾支署管内の山は、急傾斜地が多く、架線を張って木材を林道まで搬出するなど、厳しい条件下にあります。今後もD材販売と造林コストの削減の取組を続け、中部局モデルを確立するとともに、全国に向け発信することを確認し散会としました。

※D材とは山から木材を切る際に発生する枝や先端部分。